



女性学研究センター年次報告・2006年度

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊田, 久美子, 田間, 泰子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/10119

女性学研究センター年次報告・2006年度

1. 運営体制

- 所 長 黒田研二（人間社会学研究科長）
 主 任 伊田久美子
 副 主 任 田間泰子
 共同研究員 青木賜鶴子・西田正宏（言語文化学科）、
 浅井美智子・酒井隆史・谷村覚・福田珠己・村田京子・森岡
 正博・渡辺博明（人間科学科）、
 東優子・山中京子（社会福祉学科）、
 上村隆広・熊安貴美江・前川真行（総合教育研究機構）
 学外研究員 足立眞理子（お茶の水女子大学）、木村涼子（大阪大学）
 運 営 委 員 （所長・主任・副主任のほか）
 秋庭裕（人間科学科）、ケイン・ケビン（言語文化学科）、児
 島亜紀子（社会福祉学科）
 事 務 職 員 伊藤ゆきこ

2. 授業

A. 新カリキュラム

・大学院科目（人間社会学研究科）

「学際現代人間社会論演習Ⅰ」（通年4単位。伊田久美子・田間泰子・
 森岡正博）

「ジェンダー特論1A」「同1B」（半期2単位ずつ。伊田久美子）

「同2A」「同2B」（半期2単位ずつ。田間泰子）

・専門科目（学部科目）

「ジェンダーと社会」（前期2単位。田間泰子）

・教養科目（機構提供科目）

「ジェンダー論への招待」（前期2単位。浅井美智子・伊田久美子・熊
 安貴美江・児島亜紀子・酒井隆史・田間泰子・東優子・村田京子・

山中京子・渡辺博明)

「ジェンダー論入門」(後期2単位。浅井美智子・伊田久美子・熊安貴
美江・田間泰子)

B. 旧カリキュラム (人文社会学部)

「女性学演習Ⅲ」「同Ⅳ」(半期2単位ずつ。田間泰子)

「女性学概論Ⅰ」「同Ⅱ」(半期2単位ずつ。新カリキュラム「ジェン
ダー論への招待」「ジェンダー論入門」に読み替え)

3. 女性学連続講演会・連続セミナー (以下は講演会のタイトル)

第11期「家族・身体・セクシュアリティ」(6月17日～7月15日)

田間泰子「戦後家族の変容を身体のポリティクスからみる — 私たち
は何を得たのか」

沼崎一郎「男性と暴力 — ドメスティック・バイオレンスとセクシュ
アル・ハラスメントを中心に」

原ひろ子「家族の多様性とセックス・ジェンダー・セクシュアリティ」

荻野美穂「近代日本のセクシュアリティと避妊」

山中京子「HIV医療における女性の経験 — 生殖技術の利用をめぐっ
て」

4. 女性学研究コロキウム

第1回：塩谷幸子「部落問題と女性労働について」(10月4日。本誌掲載)

第2回：梁優子「在日女性の労働問題 — 在日朝鮮人女性実態調査から
浮かび上がる複合差別の実態」(11月15日。本誌掲載)

第3回：「文学とジェンダー — フランス文学における恋愛、結婚、セ
クシュアリティ」(12月9日)

梶谷温子「スタール夫人と女主人公コリンヌ」(来年度『女性
学研究』に掲載予定)

村田京子「恋愛結婚と政略結婚の行く末 — バルザック『二人
の若妻の手記』」(本誌掲載)

上村くにか「ボーヴォワールの恋愛人生 — 「行儀の悪い娘」

から「理想の妻」へ」(本誌掲載)

第4回：佐倉智美「性同一性障害の社会学 — 性別脱構築の視点」(2月5日。来年度に掲載予定)

5. 国際交流事業 (詳しい報告は本誌掲載)

センターからは、12月2日～10日、カナダのトロント大学女性学研究センターおよびヨーク大学フェミニストリサーチセンターに、共同研究員の熊安貴美江氏が訪問し、センターとの今後の国際交流について情報を交換しあった。学外研究員の木村涼子氏が、科研費による自己の調査研究の機会を利用して同行した。

また、伊田久美子主任が11月24日～12月2日の科研費による出張の際、トリノ大学女性学研究学際センターとミラノ・ビコッカ大学ジェンダー研究国際ネットワークを訪問し、国際交流を深めた。

6. 男女共同参画事業

「大阪の女性労働 — 現状と課題」(12月16日、於ドーンセンター。報告は本誌に掲載。)

7. 図書・文献資料の収集

引き続き、外国語文献資料ならびに新刊邦語文献を中心に収集した。諸雑誌の購読も継続している。

また年度末のキャンパス移転にともない、大阪女子大学図書館で廃棄予定となる書籍のなかからセンターの趣旨に適うものを選定し、センター資料室へ移管して資料室のいっそうの充実を図った。女子大図書館の御協力に感謝する。

8. その他

センターのホームページ(日文・英文)を作成した。大阪府立大学人間社会学研究科と大阪女子大学のホームページにリンクされている。URLは次の通り。<http://www.osaka-wu.ac.jp/guide/joseicenter/>

『女性学研究』の執筆要項を作成した（センターのホームページにリンクの予定）。

国際交流のための英文パンフレットを作成した。

以上は、毎年見直しながら使用する予定である。

大阪府生活文化部男女共同参画課が設立した「おおさか男女共同参画促進プラットフォーム」にセンターとして参加した。また、同課からプラットフォームの活動に連動した受託研究を引き受け、大阪府立大学の3回生を中心に「就労支援のための学生アンケート ― 男女共同参画社会の実現のために ―」を行った。その際、各部局と諸先生方、就職支援室（中百舌鳥キャンパス）、学生課就職係（大仙キャンパス）に多大のご協力をいただき、感謝する。アンケート結果については年度末に報告書を作成し、関係各部署に配付を行った。

* * *

今年度は、大阪府立大学のセンターとなって2年目を迎えました。センターは、「女性問題」だけでなく、男女共同参画を念頭におき、授業や連続講演会・セミナーといった定例の活動以外に、新しいさまざまな取り組みを活発に行いました。大阪府男女共同参画課による「おおさか男女共同参画促進プラットフォーム」への参加と、受託研究によるアンケート調査もその試みの一つです。スタッフは、中百舌鳥キャンパスの面識のなかった方々も含め多くの方々のご厚意により、一ヶ月ほどの短期間に900近い回答を得ることができました。この場を借りて、心から御礼申し上げます。来年度以降も、受託研究や調査など、大学の研究機関としての特徴を活かして男女共同参画推進のために活動し、結果をみなさまに還元してゆく予定です。

とはいえ、社会状況を振り返ってみると、非正規労働者の労働待遇や母子家庭への社会保障など、特に女性に関わりの深い問題が深刻化した1年でした。その危機感に時機を得た12月16日の男女共同参画事業「大阪の女性労働 ― 現状と課題」は、ドーンセンターとの共催により、多くの講師

を迎えて満席の、熱気溢れる会となりました。詳しくは本誌の事業報告にあります。参加者からは非常に好評で、今後もこのような取り組みをぜひ続けてほしいとの声が多く挙がりました。センターでは、今年度のコロキウムのうち2回はそのための事前学習会に当てましたし、来年度はいよいよ「大阪の女性労働」について調査に着手する予定で、今後も多くの方々にお力添えいただきながら継続して問題に取り組みたいです。

さて、センターのある大仙キャンパスでの活動は最後の年となりました。6月から7月にかけて行われた連続講演会・連続セミナーも、瀟洒な白い建物での催しは最後となり、受講生の方々に大変名残を惜しまれながら終了しました。来年度からは、中百舌鳥キャンパスで行います。

時の流れを引き留めることはできませんが、新たなキャンパスで、新たな取り組みにチャレンジしてゆこうと思います。今後も、みなさまにはセンターの歩みにご同伴いただきますよう、どうぞよろしく願い申し上げます。

(伊田久美子、田間泰子)